

医療法人外山胃腸病院 が担う役割について

平成30年7月 医療法人外山胃腸病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

A、現状

(1) 病院の理念、基本方針

私たちの病院は

- ①患者さんに公平な医療を提供します。
- ②医師による説明と患者さんの選択に基づく医療を進めます。
- ③患者さんのプライバシーを尊重します。
- ④診療情報を患者さん自身にお伝えします。
- ⑤よりよい医療が行われるよう研修・研鑽いたします。
- ⑥患者さんの人生が最後まで豊かであるように、その意思を尊重いたします。

(2) 病院の診療実績(平成29年12月現在)

①施設基準届出

- ・ 一般病棟入院基本料(10対1) ・ 療養病棟入院基本料
- ・ 診療録管理体制加算2 ・ 医師事務作業補助体制加算1(75対1)
- ・ 急性期看護補助体制加算(25対1・看護補助者5割以上)
(夜間急性期看護補助体制加算・夜間100対1)
- ・ 退院支援加算2 ・ データ提出加算1 ・ 地域包括ケア入院医療管理料1
- ・ 入院時食事療養(I) ・ がん性疼痛緩和指導管理料 ・ がん治療連携指導料

- ・在宅療養支援病院(Ⅲ) ・在宅時医学総合管理料 ・CT撮影及びMRI撮影
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ) ・運動器リハビリテーション(Ⅰ)
- ・呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の1に掲げる手術(胃瘻造設)
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ・酸素単価

②平均在院日数

- ・一般病床：11日
- ・地域包括ケア病床：28日

(3) 病院の職員数

- ・医師：15名
- ・薬剤師：3名
- ・診療放射線技師：2名
- ・管理栄養士：1名
- ・看護師：35名
- ・准看護師：32名
- ・理学療法士：8名
- ・作業療法士：5名
- ・言語聴覚士：1名
- ・マッサージ師：1名
- ・ケアマネージャー：4名
- ・社会福祉士：1名
- ・介護福祉士：13名
- ・看護補助者：19名
- ・事務員：16名
- ・准看護学院生：6名
- ※総職員数：162名

(4) 病院の特徴

①救急病院

- ・24時間体制で診療にあたっています。当直医には、専門外でもまずは診療を断らずに診療するようにしております。
- 診療した後で専門医の診療が必要な時には躊躇せずに専門病院(ほとんどが人吉医療センター)へ送るように指導しています。
- 最近、救急車のスタッフがあらかじめ重軽症のトリアージをしていますが、当院の役割は救急患者のトリアージであると思っております。

平成26年1月～12月の休日患者(小児除外)集計で(【資料③】)新患3948名のうち42%、再来を合わせた合計7155名のうち44%の患者さんを当院の当直医が診療し、適宜トリアージを行い必要に応じて人吉医療センターへ搬送しております。

②総合診療医がいる病院

- ・高齢者はいろいろな疾患をもっています。多くの疾患に対応できるよう総合診療医として知識と技術を身につける様に研鑽を続けています。消化器疾患だけでなく、整形外科疾患、関節リウマチ、神経難病、血液疾患、末期がん、など広範囲の疾患を診療し必要な時は躊躇なく専門医の受診をすすめています。

③人吉医療センターとの連携を密にし、高度医療を要する患者さんは送り、逆に超急性期を脱した患者さんの準急性期・回復期の管理・ケアをしております。在宅医療推進のために、人吉市医師会等の訪問看護ステーションをはじめ、他の在宅医療関連機関との連携を密にしております。

④在宅医療推進にも力を入れており、平成29年度に「訪問看護ステーション」を開設しました。

B、課題

当院の常勤医師及び非常勤医師は九州大学及び佐賀大学より派遣されておりますが、大学との関係がいつまで継続するかは不透明な点であります。今後、地域医療を熱心な優秀な医師をいかに確保するかが課題であります。更には今後は在宅医療推進や病院機能維持のための看護師や看護補助者等のパラメディカルの確保も大きな課題であると思います。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

1、救急医療

- ・ 前記A(4)当院の特徴を参照ください。
- ・ 別紙資料①、②を参考にしてください。
- ・ 人吉医療センターの負担軽減を担うように当地域の救急医療の一翼を担う役割を継続する予定です。
- ・ 地域、特に人吉・下球磨地域の救急医療は人吉医療センターに負うとことが大きいようです。

平成28年度の管内の救急搬送件数は、人吉医療センター：79%、外山胃腸病院：14%で少しでも人吉医療センターの負担を減らすように軽度患者は可能な限り診療し、重症患者のトリアージを行っております。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	—	—	—
急性期	58(一般20)	58(一般20)	
	(包括38)	(包括38)	
回復期			
慢性期	50 (医療26・介護24)	50 (医療50)	
その他	—	—	—
合計	108	108	

※当院の地域包括ケア病床は急性期と回復期を併せもつ

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

- 慢性期の介護療養病床(24床)を医療療養病床へ
転換予定(検討中)。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (H29年12月時点)	2025年	理由・方策
維持	外科・内科・胃腸科・ 整形外科・肛門科・ 形成外科・ リハビリテーション科	同左	総合診療医がいる病院 として多くの疾患に対 応できる様に維持して いく。
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(H29年12月時点)	2025年
①病床稼働率	99.1%	数値目標特になし
②紹介率	5.39%	数値目標特になし
③逆紹介率	4.52%	数値目標特になし

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

- 現状特になし。

4 その他特記事項

【その他特記事項】

- 現状特になし。